

あおやぎ

No.270
2017年7月



染色



頸動脈エコー



採血



薄切

麻疹について ②③

「看護の日」を終えて ④

県民健康講話 ⑤

こんにちは！地域医療部です。 ⑥

職員のお仕事紹介～検査部より～ ⑦

外来診療案内 ⑧

第3回あおやぎ祭り2017の開催について ⑧

県立中央病院の理念と方向性

〈理念〉

県民の健康と生命を支える安心と信頼の医療

- ・患者の権利と意思を尊重し、高度で良質、適正な患者中心の医療を提供します。
- ・医療従事者としての倫理綱領を守ります。
- ・最適ながん医療と生活習慣病対策を推進します。
- ・信頼される救急医療を提供します。
- ・地域医療、福祉との連携をします。
- ・将来を担う医療人の教育、育成を行います。
- ・公共性に配慮した健全な病院経営を目指します。



麻疹について

感染症内科・感染対策部 ● 阿 部 修 一

はじめに

今年の3月～4月に山形県を中心に麻疹(ましん、はしか)の大流行(アウトブレイク)があり、県内外で合計60名の方が麻疹を発症しました。地域別では置賜が最も多く、次いで村山、庄内、県外で発症者が確認されました(図1)。今回のアウトブレイクは1ヶ月以上続き、最終的に5月になって終息宣言が出されました。なぜこのように麻疹の感染が広がってしまったのでしょうか。

麻疹はどのように感染拡大するのか

麻疹は麻疹ウイルスによる感染症です。麻疹ウイルスは病原微生物の中でも最も感染力が強いことが知られています。もし1人の麻疹の患者がいる場合、仮に全く感染対策をしなければ、計算上、周囲の12～18人に感染が拡大すると言われています。インフルエンザでは、1人の患者から感染するのは2～3人と考えられますので、いかに麻疹の感染力が強いのか、ということがわかります。

また、麻疹ウイルスは空気感染により感染拡大します。くしゃみや咳と一緒にウイルスが飛び散ったものを飛沫といいますが、その飛沫の水分は飛び散っているうちになくなってしまいます。ところが、麻疹ウイルスはそのまま空中をしばらく浮遊する性質があります。ウイルスが漂っている空気を周囲の人が吸い込んでしまうと、そのまま感染してしまいます。これが空気感染です。麻疹を発症した人がくしゃみや咳をするたびにウイルスが空気中に飛び散ってしまいますが、きちんと咳エチケットを守ったり、マスクを着けたりすれば、その人から飛び散る飛沫の量を減らすことができます。ところが厄介なことに、周囲の人が感染予防の目的でふつうのマスクを着けても、空気中の麻疹ウイルスから身を守ることができないのです。空気感染予防には医療用の特殊なマスクが必要です。

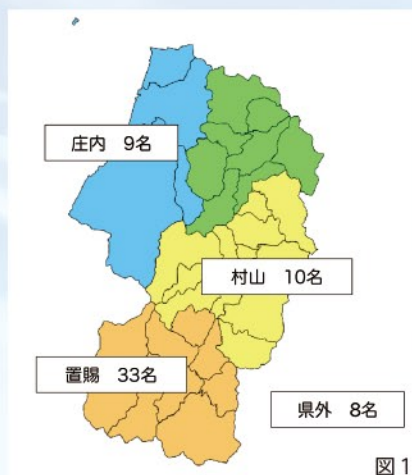


図1

麻疹はどのような感染症か

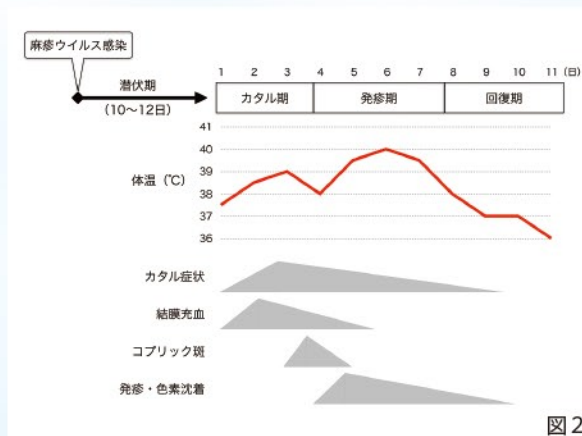


図2

麻疹の臨床経過はカタル期、発疹期、回復期に分けられます。典型的な麻疹の経過は次の通りです(図2)。麻疹ウイルスに感染すると、およそ10～12日の潜伏期を経てから、38℃前後の発熱、倦怠感とともに、咳、くしゃみ、鼻水、咽頭痛などのカタル症状や結膜の充血、眼やになどの結膜炎症状が出現します。このような症状が出現する時期がカタル期であり、2～4日間続きます。麻疹の経過中、カタル期が最も感染力が強いと言われています。カタル期の後半になると、口の中の粘膜のちょうど奥歯に接するあたりに、1mm程度の白色の斑点(コプリック斑)が出現します。このコプリック斑は麻疹に特

徴的とされており、しばしば診断の手がかりになる所見です。その後、発熱が一旦1℃くらい下がった後、約半日で再び高熱(多くは39℃以上)が出現して発疹期に入ります。麻疹特有の発疹が耳の後部、首、ひたいから始まって、次第に顔面、体幹部、上腕、さらには両手両足にまで広がります。麻疹の発疹は、初めは鮮紅色で平らですが、徐々に皮膚の表面から隆起して様々な形の発疹になります。このような発疹が全身に広がりながら、39～40℃台の発熱が3～4日間続き、カタル症状も一層強くなります。口の中のコプリック斑は、発疹出現後2日くらいすると消失します。

その後、回復期に入ると次第に解熱して、全身状態が徐々に改善します。発疹は次第に鮮紅色から暗赤色に退色していきますが、しばらく色素沈着が残ることもあります。この頃になると、もうウイルスの感染力はなくなります。

麻疹は基本的に自然治癒することが多く、通常7～10日で体調が回復します。しかし、麻疹は時に重篤な合併症を伴うことがあります。特に注意すべき合併症は肺炎と脳炎です。麻疹の約6%で肺炎の合併が認められます。麻疹に併発する肺炎は、麻疹ウイルスそのものによるウイルス性肺炎(いわゆる麻疹肺炎)や二次性細菌感染による細菌性肺炎などがあります。麻疹肺炎が悪化して呼吸不全を合併すると、肺から酸素を十分に取り入れられず、自力で呼吸ができなくなります。麻疹肺炎は特に乳児で重症化して致命的となることがあります。また、麻疹患者の1,000～2,000人に1人の割合で脳炎が起こります。麻疹脳炎を発症すると、約60%は完全に回復しますが、約25%に何らかの中樞神経系の後遺症が残ります。脳炎の致死率は約15%です。さらに、亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という脳炎の病型があります。SSPEは麻疹ウイルスが脳に持続感染して起こります。潜伏期は4～8年と長く、ひとたび発症すると知的障害や運動障害が数ヶ月から数年単位で徐々に進行して、最終的には致命的な経過となります。

ワクチンによる麻疹の予防

麻疹ウイルスは感染力が強い上に空気感染によって拡がるため、感染対策だけで麻疹をコントロールするのは至難の業です。しかし、麻疹に対する免疫を獲得すれば、麻疹の感染をほぼ完全に予防することができます。昔から麻疹は「一度かかれば二度とかからない」と言われてきましたが、これは麻疹に感染することで免疫反応が惹起されるからです。かつて日本でも麻疹が多かった時代には、感染による免疫獲得の機会も多かったと考えられます。

麻疹に対する免疫獲得のための最も安全な方法はワクチン接種です。日本では1978年から麻疹ワクチンの接種が義務化されました。ただし、この時のワクチン接種は1回のみであったため、全員に十分な免疫がつくとは限りませんでした。そこで、1990年から2回接種が始まりました。日本国内の麻疹感染者の減少に伴い、感染による免疫獲得は相対的に少なくなってきました。したがって、麻疹ワクチンを1回しか接種していない、1978年～1990年生まれの人には麻疹に対する免疫が不十分である可能性があります。

麻疹に対する免疫が全くないわけではないが十分でもない状態の人が麻疹ウイルスに感染すると修飾麻疹という形で発症します。修飾麻疹では、ある程度麻疹ウイルスに対する免疫機構が働くため、高熱が出ない、発熱の期間が短い、コプリック斑が見られない、発疹が少ない、潜伏期が長くなる、など典型的な麻疹とは異なる経過をとります。修飾麻疹は通常の麻疹よりも感染力は弱いものの、やはり周囲への感染源となり得るため、感染対策の点では通常の麻疹と同様の対応が必要です。今回のアウトブレイクでは麻疹ウイルス感染者の大部分がワクチン1回接種年代に該当する20代～40代の人々であり、そのほとんどが修飾麻疹として発症しました。やはり1回接種では麻疹に対する十分な免疫を獲得することができないことが明らかでした。

2006年からは麻疹(Measles)と風疹(Rubella)の混合生ワクチンである、MRワクチンの定期接種が開始されました。定期接種の第1期は満1歳～2歳未満の間に、第2期は就学前の1年間に実施されます。MRワクチンの定期接種が開始されたことにより、日本国内の麻疹感染者はさらに減少し、2015年に日本はWHOから「麻疹排除国」と認定されました。したがって、現在日本で流行する麻疹ウイルスは海外から輸入されたウイルスです。今回のアウトブレイクのきっかけとなった初発感染者も、インドネシア・バリ島で感染したと推定されています。

「麻疹なんて子供のうちにみんな1回はかかるものだ」と考える方もまだ多いと思います。しかし、麻疹は感染力が極めて強く、感染すれば自分も他人も命を落とす危険性がある病気です。麻疹の感染を予防する唯一の方法はワクチン接種です。子供達にきちんと定期接種を受けさせるだけでなく、ワクチンを1回しか打てなかった20代～40代の人たちも追加接種をすることが望ましいです。特に海外ではまだまだ麻疹流行国が多いので、海外旅行に出かける前にワクチンを接種しておくことも大切です。ワクチンで麻疹ウイルスから自分を守ることは、同時に家族や周囲の人たちを麻疹の危険から守ることもつながるのです。

「看護の日」を終えて

中央手術部看護師長 ● 森 谷 陽 子

5月12日は「看護の日」です。21世紀の高齢化社会にむけて全ての人に「看護の心」「ケアの心」「助け合いの心」を育むきっかけとなるよう、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ旧厚生省が1990年に設定しました。

当院でも看護部自治会を中心に正面玄関にナイチンゲール像と豪華な生花を飾り、各階フロアーにも生花を飾り看護の日を盛り上げました。また、5月11日(木)10時から14時まで2階講堂において「災害に備えて自分を守ろう」～備えあれば憂いなし～をテーマに看護の日のイベントを開催し146名のご参加を頂きました。体験コーナーでは災害時エコノミー症候群を予防する目的で山形県長寿社会課の協力を得てDVDをお借りし、花笠音頭に合わせた「花の山形! しゃんしゃん体操」を参加者の方々と踊りました。地区の行事に活用したいと踊りをマスターした方もいらしたそうです。展示コーナーでは看護師の子供たちから寄せられた作文や絵を掲示しました。見る人の心をなごませイベント会場を明るく華やかに彩ってくれました。もう一つの展示では当院DMATの活動報告(熊本地震での活動)をポスター形式で掲示し、スケジュールや写真などでDMAT活動の責務をあらためて知る機会となりました。また、災害時等非常持ち出し品チェックリストや山形市街地の避難場所地図などを提供しました。測定コーナーでは身長・体重・体脂肪・血圧・骨密度測定に加え今年は新たに血管年齢測定を行いました。測定時間に5～10分を有したため待ち時間が長く断念された参加者の方々には大変申し訳なく思っています。しかしその中でも関心をもって参加された方々は結果に一喜一憂した方も少なくなく、今後の生活でどのような事を注意すべきか



看護師にアドバイスを求める姿もお見受けしました。

今年はイベント開催の院内放送を増やし、手のひらサイズのチラシを外来にいらした方々へお配りした事で多くの方が興味をもってお越しいただけたこと、心より感謝申し上げます。4時間という短い時間ですがイベントを通し私達が行っている看護や私達が働く県立中央病院の果たすべき役割りを一般の方々に知って頂けたのではないかと思います。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。来年もこの時期に開催致しますので、ぜひお越しください。

県民健康講話～お気軽においでください

医事相談課長 ● 三浦 光一郎

当院では、地域住民の病気予防と健康増進に向け、病気に対する診断とその治療や予防法について専門医師が分かりやすく解説し、医療に対する知識や理解を深めていただくとともに、地域住民との間に深い信頼関係を築いて、患者サービスの向上を図ることを目的として、昨年11月から「県民健康講話」を始めました。

できるだけ多くの方においでいただけるよう、山形市内中心部に出て、会場(遊学館第一研修室)と時間(土曜日の午後2時から3時30分まで)を固定し、本年7月まで8回(概ね月1回ペース)の開催を数えたところ。回を重ねるにつれて参加者数も増え、リピーターの姿も見えるなど、徐々に定着してきた感があります。

講師は各診療科持ち回りで、これまで、(第1回)泌尿器科、(第2回)心臓血管外科、(第3回)消化器内科、(第4回)循環器内科、(第5回)脳神経外科・神経内科、(第6回)呼吸器内科、(第7回)乳腺外科、(第8回)糖尿病内分泌代謝内科の医師が務めました。

講話の基本的なスタイルは、1～3人の医師がその専門分野について、スクリーンに映し出すビジュアルな資料と、参加者への配布資料(ない場合もあります)に基づき、難しい専門用語も含め分かりやすく解説し、さらに座長役の医師が内容をまとめながら、質問を受け付けるというものです。質問は毎回活発で、時には難問(?)が出されることもあり、講師・座長役の医師は、診察室とはまた違った開放的な雰囲気の中で、丁寧に答えています。

直近の参加者アンケートでは、「具体的な数値で説得力がある」「最新療法の説明に安心した」などのお褒めの言葉や、「予防のために注意すべき内容が分かった」「帰宅したら家族にも話して聞かせたい」など今後の健康管理に役立てたいという声が多く寄せられています。また、配布資料についても、「大変きれいで文字も大きく、読みやすい」「帰ってから読み返したい」「東京の息子に送って読ませたい」など高い評価をいただいています。資料をコレクションして、何度も読み返している参加者もいらっしゃるようです。

これらの声から、当院医師はその専門的知見に基づき「疾病予防から最新の治療法まで」を「見やすい資料で分かりやすく」説明し、参加者は「自分のためだけでなく、資料などにより家族にも講話内容を伝達する」という本講話のカラーが出来上がってきていると感じられます。

医師も、忙しい診察の合間を縫って資料作りや説明内容の推敲に腐心しておりますが、日常の診察とは違った形で、県民の病気予防と健康増進に寄与していることを感じ、大きな励みになっているようです。

今回は9月9日(土)午後2時から遊学館で、緩和ケアをテーマに開催予定です。入場はもちろん無料、事前申込なども不要ですので、どうぞお気軽においでください。街なか散策と併せ、月1回、土曜日の午後を有意義に過ごしてみませんか。



山形県立中央病院 県民健康講話

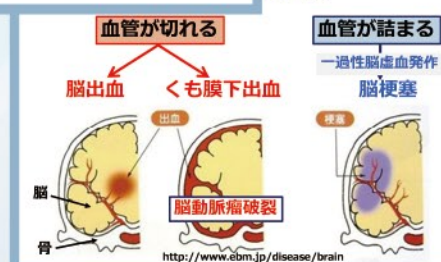
脳卒中をもっと知ろう

-くも膜下出血の原因、脳動脈瘤の手術を知ろう!-

山形県立中央病院
Yamagata Prefectural Central Hospital
脳神経外科 熊谷 孝

平成29年3月25日 於：遊学館

の種類



こんにちは！地域医療部です。

地域医療相談専門員 ● 有井 津也子

私は地域医療部という部門で働いている看護師です。病棟や検査室・手術室と違いなじみのない部門ですが、最近メジャーになっています。一言でいえば高齢社会を元気に自分らしく生き抜くための情報満載のよろず相談所です。場所は正面玄関から入って左側、ピンクのカーテンが目印です。

構成メンバーは現在社会福祉士 5 名、ソーシャルワーカー 1 名、看護師 6 名、事務員 3 名の 15 名です。どうしてもメジャーになったのかというと、皆さんがご存じの社会情勢(少子高齢社会、老老介護、認知症、在宅医療、介護保険、地域包括ケアシステム等)と深く関わり、地域と病院を「つなぐ」役割を担っているからです。

地域医療部の主な仕事を外来・入院・退院という流れの中で簡単に説明していきます。



【病院を受診するまで】

皆さんはかかりつけ医をお持ちですか。家の近所にあり自身や家族の病歴や体質・生活習慣などを把握してもらい、入院や精密検査が必要な時、紹介状を書いてもらいます。かかりつけ薬局もお薬のことで相談でき、訪問もしてくれるのでお勤めです。外来 FAX 予約・受診電話相談、紹介状・返書の管理も地域医療部の大事な仕事です。

【入院が決まったら】

病気のこと、職場のこと、入院費のこと、留守になる家庭のこと等心配事は尽きません。入院案内に入っている限度額適用認定証の交付について社会福祉士が説明しますので、できれば入院前に手続きを済ませて下さい。がん相談、セカンドオピニオンの相談窓口も地域医療部です。

○ご自宅での状態を教えてください。

要介護状態の方、ケアマネジャーのいる方は外来通院の時から情報を頂き「病気を持って暮らす」ということを一緒に考えお手伝いしています。

○入院中も退院後の生活を見据えて

病棟には地域医療部の担当者が配置されています。「退院支援計画書」に基づいて退院後の生活を見据えた相談に応じています。各種制度(介護保険、身体障害者手帳、難病など)が利用できるか、退院後も医療処置が継続する場合、訪問看護は必要か、早期に多職種(医師、看護師、薬剤師、栄養師、理学療法士など)での話し合いを行います。

短い入院期間ですが今後の生活の分岐点となる大事な時間と捉えています。

【退院が近づいたら】

安心して退院し、自宅などで安定した療養生活ができるよう、病院スタッフと退院後の在宅医療・ケアスタッフ等が集まり退院に向けての準備をします。ケアマネジャーがいなくても福祉用具のレンタルや訪問看護の相談ができます。もう少しリハビリを続けるための転院先や施設入所の相談もできます。

【顔の見える関係づくり】

地域医療部では病院と病院・診療所・介護施設等との連携を推し進めています。転院先の病院訪問、協力医とのカンファレンス、在宅医療・介護施設職員との研修会を定期的に行っています。メールや電話・FAX 等での情報のやり取りが簡単にできるからこそ、直接会って話し合うことの大切さを感じています。

【こんなことも】

ハローワーク出張相談、障害年金無料相談、がんサロンも定期的に行っています。どうぞ、お気軽に地域医療部のピンクのカーテンを開けて声をかけてください。

職員のお仕事紹介～検査部より～

職 名：臨床検査技師

氏名：安達 汰一（あだち たいち） 荒木 千夏（あらき ちなつ）
黒沼 彩佳（くろぬま さやか）

入庁後の経歴：平成 27 年 4 月入庁

平成 27 年 山形県立中央病院 中央検査部

臨床検査技師 3 年目、同期の 3 人です。よろしくお願いします。



はじめに

臨床検査技師は、医師の指示のもと病気の診断に必要な検査を行っています。採取した血液、尿、便、髄液などを調べる検体検査、感染症の病原菌を特定し、その菌に有効な薬剤を調べる細菌検査、手術等で採取された組織や細胞に異常な細胞がないか調べる病理検査、血液型を判定し、輸血する血液が適合するか調べる輸血検査、心電図や脳波、超音波検査など体の生理的反応や機能を調べる生理検査と仕事は多くの分野にわたります。それぞれ別の検査を担当する 3 人の業務内容について紹介します。



ある 1 日のスケジュール

時間	安達（検体検査）	荒木（生理検査）	黒沼（病理検査）
8:10	機器立ち上げ、試薬等準備	機器立ち上げ	機器立ち上げ、試薬等準備
8:20	それぞれ検査室でのミーティング スケジュールの確認と連絡事項の報告を行います。		
8:30	検体検査・採血 患者さんの血液、尿、便を測定機器にかけて検査をしていきます。また、外来採血も対応します。	脳波検査 頭に電極を付けて、脳から出る電位を記録し機能を調べる検査です。脳波室で検査を行います。来室が難しい場合はポータブル脳波計を持参し病棟でも検査を行います。	包埋・薄切・染色 パラフィンブロックを作成し（包埋）、顕微鏡で見えるように約 4μm に薄く切ります（薄切）、切ったものを試薬で染色します。
11:30	自己血糖測定指導 病棟の患者さんに自己血糖測定の機器の扱い方を指導します。	午前 2 枠、午後 2 枠の予約検査ですが、緊急のオーダーにも対応しています。	術中迅速組織診断 手術中に腫瘍が全て摘出できたかなど、通常診断まで 3～5 日要するものを 30 分程度で迅速に診断します。
13:00	メンテナンス 測定機器の試薬を補充、点検、修理、精度管理等のメンテナンスを行います。	心電図・肺機能検査 心電図検査は不整脈や虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）などを、肺機能検査は呼吸機能を調べる検査です。	消化器切り出し介助 病理医がオペ室で摘出した臓器を重要な所だけ小さく切ります。
14:30	検体測定 引き続き検体測定を行います。また、翌朝の採血管を作成し病棟へ提出します。	頸動脈エコー 動脈硬化や血管のつまりや狭い部分がないかを調べる検査です。	標本チェック 出来あがった標本の染色性などを顕微鏡で確かめます。その後、病理医に提出し、診断してもらいます。
16:30	翌日の準備 測定検体に漏れがないかを確認後、検体を保存します。宿直者へ引き継ぎのための連絡事項を作成します。	片付け・翌日の準備 使用した機器の掃除や物品の補充、翌日の検査の情報収集等を行います。	翌日の準備 翌日使用するスライドガラス等、道具を準備します。今日切り出した臓器を翌日包埋・薄切できるように、翌日まで処理します。
17:15	業務終了		

県職員臨床検査技師としての魅力

各種認定や超音波検査士など資格を持った技師が多数在籍しており専門性を活かして仕事をしています。私自身も資格取得やスキルアップを目指してアドバイスを頂きながら精進していきたいと思っています。検査結果は診断に大きく関わるため、間違いが起こらないよう注意を払って検査しています。責任は大きいですが、やりがいも大きい仕事です。臨床検査技師は担当する分野も幅広いです。県立病院や保健所など様々な環境で仕事ができるのは県職員としての魅力の一つだと思います。

外来診療案内

当院を受診する時は

初めて受診される方は、総合受付（初来院受付）に診察申込書と問診票及び紹介状（紹介状をお持ちの方）を提出のうえ、受付してください。なお、総合窓口受付開始時間までは番号札をとってお待ちください。

再来の方は、予約の有無に関わらず、**再来受付機**で受付してください。受付票と診察券を受け取り、各科外来ブロック等にお越しください。（再来受付機は、午前7時45分からご利用になれます。）

保険証は・・・

診察の都度、総合受付（再診受付）又は、各科ブロック受付に必ずご提示ください。住所・電話番号が変わった時は、必ず申し出てください。**保険証のご提示がないと全額自己負担になります。**

紹介型外来について

現在、当院においては、一部診療科の外来診療の初診について、【紹介型外来】による医療提供を実施しており、**緊急の場合を除いて、紹介状をお持ちの方のみの受付に限定させていただいております。**

初診の際に紹介状が必要な診療科…形成外科、泌尿器科、婦人科、眼科耳鼻咽喉科（水曜日）、歯科口腔外科（水曜日、第1・3金曜日）

非紹介患者初診加算料及び再診加算料について

他の保険医療機関からの紹介がなく、直接当院へ来院された患者さんは、初診に係る費用（非紹介患者初診加算料）として5,000円（税含む）を頂いております。また、当院から他医療機関（大病院を除く）への紹介の申し出後に、当院を受診した患者さんからは「再診加算料」として、2,500円（税含む）を頂いております。

※緊急入院等の場合は除きます。

外来診察に係る再来患者さんの電話予約及び予約変更については、医療相談支援センターで受け付けております。

TEL 023(685)2620 (13時～16時)

「かかりつけの先生」からのFAX予約も受け付けております。待ち時間も少なくてすみませので「かかりつけの先生」にご相談ください。

FAX 023(685)2606 (平日 8時30分～18時
土曜 8時30分～14時30分)

初来院受付時間

午前8:00～11:30

ただし、眼科の水・木曜日の受付は、10:00まで

ブロック	診療科	診療曜日
A	内科	月 火 水 木 金
	循環器内科	月 火 水 木 金
	消化器内科	月 火 水 木 金
	感染症内科	第3月曜日のみ
B	整形外科	月 火 水 木 ※
	眼科	月 火 水 木 金
	歯科口腔外科	月 火 水 木 金
C	脳神経外科	月 火 水 木 金
	泌尿器科	月 火 水 木 金
	心療内科	月 火 水 木 金
	神経内科	月 火 水 木 金
D	産婦人科	月 火 水 木 金
	耳鼻咽喉科	月 火 水 木 金
E	小児科	月 火 水 木 金
	小児外科	火(午後)・金(午後)
	皮膚科	月 火 水 木 金
	形成外科	※ 火 水 木 ※
F	外科	月 火 水 木 金
	呼吸器外科	※ 火 水 ※ 金
	乳腺外科	月 火 水 木 金
	心臓血管外科	※ 火 ※ ※ 金
	麻酔科・ペインクリニック	月 ※ 水 木 ※
	緩和ケア医療科	月 ※ ※ 木 金
	放射線科	放 射 線 科 月 火 水 木 金

※は休診日です。受付しておりませんのでご注意ください。心療内科（月～金曜日）、麻酔科・ペインクリニック（水曜日）、泌尿器科（火曜日）は予約診療のみ。

第3回 あおやぎ祭り2017の開催について



今年9月24日(日)に、当院において「第3回あおやぎ祭り 2017」を開催します。このお祭りは、次のことを目的として、今年で3回目の開催となります。

- ・地域や住民の方々に開かれた病院づくりを推進すること。
- ・入院されている患者さんの元気づけを図ること。
- ・より良い職場環境づくりを推進すること。

お祭りでは、演奏や院内保育所園児による踊りなどのイベントをはじめ、各種出店、病院の特性を活かした各種健康チェックや体験コーナーなどを開催する予定です。お誘いあわせの上げひお気軽にご来場ください。

開催日時／平成29年9月24日(日) 10時～15時

開催場所／山形県立中央病院1階総合受付前ロビー、2階講堂 ほか

